

インターネット銀行の動向

大和田 智美 ● 株式会社ストック・リサーチ 取締役

口座数の増加で、ネット專業は3行とも黒字の見込み 乱数表やワンタイムパスワードの利用でセキュリティを強化

■ ネット專業銀行の口座数は大幅に拡大し、収益も増大

ネット專業銀行の2006年3月末の口座数は、1年前と比較してイーバンク銀行が46%増の147万口座、ジャパンネット銀行が28%増の135万口座、ソニー銀行が17%増の43万口座と順調に拡大している。

都市銀行のネットバンキングの口座数は、たとえば三井住友銀行でおよそ650万口座であり、ネット專業3行の口座数を合計しても半数程度だが、サービスが特化されていることを考えると、かなり健闘していると言える。

2005年度までジャパンネット銀行のみ黒字という状況だったが、2006年3月期には3行とも黒字となりそうだ。ジャパンネット銀行やイーバンク銀行は決済業務が、ソニー銀行は住宅ローン、外貨預金、投資信託などの資産運用サービスが好調で、それぞれの持ち味が収益に結び付いた格好だ。ジャパンネット銀行は決済のほか、注力してきた個人向けローンの金利収入も伸びている。

■ 総合力の都市銀行、独自性の專業銀行

都市銀行のネットバンキングサービスも含めたネット銀行

のサービスを見ると、都市銀行は総合力、專業は独自性が特徴だ。都市銀行のネットバンキングというのは、通常の口座にネットバンキングサービスを付加するものであるため、どの銀行も使い勝手はそれまでと変わらない。使えるATMも最も多く、公共料金の引き落としや給与振込口座としてそのまま利用できる。

このように、日常的に利用するには便利なのだが、金利が安く、また、同行あてでも24時間リアルタイムで決済できないといった不便な面もある。ネット專業銀行はこの逆で、金利が高く、独自の決済サービスを持つ。その一方、使えるATMは限定されており、銀行によっては公共料金の引き落とし、給与振込などができないところもある（資料5-5-3参照）。

ネット銀行は、従来より振込の仕方がわかりにくい、ミスをしやすいという欠点があった。ATM振込を行う場合は、銀行名、支店名、口座番号を入力すれば口座名義人が表示され、相手口座かどうか確認できるが、ネットで振込（他行あて）を行う場合は確認作業がされないため、口座名義人を正しく入力しなければ振込ができなかった。しかし、都

セキュリティや決済方法で差別化を図る

資料5-5-3 主なインターネット銀行のサービス（ネット專業銀行・都市銀行・その他）

銀行のタイプ	銀行名	特徴あるセキュリティ対策	携帯電話	即時決済、その他独自決済	口座維持手数料	ネット振込手数料 3万円以上の場合 本店あて/他行あて ()内はATM利用時	取扱商品・機能			
							定期預金	外貨預金	投資信託	公共料金引落し
都市銀行などのネット銀行	みずほ銀行	乱数表、みずほダイレクト保険で50万円まで補償など	iモード、EZweb、Vodafone Live!	ネット振込決済サービス	無料	210円/420円 (210円/420円)	○	○	○	○
	三井住友銀行	乱数表、ワンタイムパスワードなど	iモード、EZweb、Vodafone Live!	ウェブ振込サービス	無料	105円/420円 (210円/420円)	○	○	○	○
	三菱東京UFJ銀行 (旧：東京三菱)	乱数表など	iモード、EZweb、Vodafone Live!	eペイメント	無料	0円/315円 (0円/420円)	○	○	○	○
	三菱東京UFJ銀行 (旧：UFJ)	乱数表など	iモード、EZweb、Vodafone Live!	ネット振込EDI	無料	0円/315円 (0円/420円)	○	○	○	○
	りそな銀行	りそなダイレクトあんしん保険で300万円まで補償など	iモード、EZweb、Vodafone Live!	—	無料	0円/100円 (100円/400円)	○	○	○	○
新生銀行	セキュリティキーボードなど	×	—	無料	0円(回数制限なし)/0円(月5回まで、残高により30回まで)	○	○	○	○	
ネット專業銀行	イーバンク銀行	ワンタイム認証、セキュリティボード、eBANKセキュリティ保険で300万円(又は1000万円)まで補償など	iモード、EZweb、Vodafone Live!	メルマネ、イーバンクデビット	無料	0円/160円(—)	○	×	○	×
	ジャパンネット銀行	乱数表、ワンタイムパスワードなど	iモード、EZweb、Vodafone Live!	リンク決済、J振	105円/月、条件付きで無料	52円/262円 (提携先ATMの料金)	○	×	×	○
	ソニー銀行	パソコンの登録、ソフトウェアキーボードなど	×	—	無料	0円/210円 (提携先ATMの料金)	○	○	○	×

※1-金利は2006年5月1日現在

市銀行では昨年よりATM同様に口座確認ができるようになり、格段に使い勝手がよくなった。ただし、ネット専門銀行は従来どおり確認不可である。これは、ネット専門が銀行間のネットワークの1つである全国キャッシュサービス(MICS)の提携行でないためだ。

■ 乱数表やワンタイムパスワードでセキュリティ対策

ネット銀行の利用において心配なのが、ネット上の不正利用だ。IDやパスワードを他人に知られてしまうことにより、身に覚えのない振り込みをされる危険性や、偽のサイトに誘導されてパスワードを読み取られてしまうフィッシング詐欺に遭う可能性はゼロではない。ただし、どの銀行でもこのような被害への対策がなされている。

まず、不正利用への対策として最もポピュラーなのが、乱数表の利用だ。乱数表とは、取引の実行ボタンを押す前に入力する数字が示されているカードのことである。乱数表にはランダムに十数個～百個程度の英数字(個数は銀行により異なる)が並んでいる。そして、振り込みなどの資金移動が伴う取引の最後に、この乱数表の中から、サイトから指示される位置の数字をいくつか入力する。毎回指示される位置が異なるため、取引の都度、違う番号を入力する仕組みになっているのだ。

したがって、この乱数表さえしっかり管理していれば、仮にハッカーなどによってネット上でIDやパスワードを盗まれてしまっても、出金はできないということになる。都市銀行のほかすべてと多くの地方銀行、そしてネット専門銀行では、ジャパンネット銀行がこの乱数表を導入している。ソニー銀行では、利用者にパソコンを登録してもらい、アクセス時に

顧客自身が利用しているかどうかを判別するシステムをとっている。

さらに、2005年から導入が始まっているのが「ワンタイムパスワード」だ。銀行からキーホルダーのようなパスワード表示機が配布され、ここに数十秒おきに使い捨てのパスワードが表示される。このパスワードを取引時に入力する。

毎回異なった番号を入力するという意味では、乱数表と性格は似ている。三井住友銀行は昨年このワンタイムパスワードを導入。標準サービスではなく、利用には申し込みが必要だ。無料配布だが、毎月利用料が105円必要である。ジャパンネット銀行では全顧客に配布(9月ごろまでに配布完了予定)し、こちらも無料だが、セキュリティ強化を含むサービス改善にともない、口座維持手数料を月に105円から189円に値上げする予定だ。

このほか、ネット上の不正利用があった場合に被害額を補償する制度がある(資料5-5-3参照)。

■ 昨年に続き新規参入発表が相次ぐ

2006年はネット専門銀行の新規参入が相次いで発表された。まず、SBIホールディングスと住友信託銀行が提携して2007年度にもネット銀行を設立する予定だ。楽天は東京都市銀行と提携し、7月にも「楽天支店」を開設し、さらにネット銀行の設立も視野に入れているようだ。

2005年参入を発表していた2社のうち、ライブドアは実現に至らなかったが、ヤフーは提携先銀行をあおぞら銀行からジャパンネット銀行に変えて参入する。既存のネット専門銀行との提携で、ヤフー会員への独自決済サービスの提供が急速に進むと思われる。

都市銀行などの店舗型銀行とネット専門銀行のサービスの大きな違いは、品揃え、ATMの対応度、金利と言える。店舗型は品揃えが豊富で、利用できるATMも多い。一方、ネット専門は高金利だが、商品や利用できるATMが限定されている。24時間利用できるコンビニATMにおいて、種類の多さという点では、三井住友、三菱東京UFJ(旧UFJ)が優れている。コンビニATMに限ると、ジャパンネット銀行も対応度が高い。振込手数料は他行あての場合、新生銀行、りそな銀行、ネット専門、都銀(メガバンク)の順に安い。

金利※1		利用できるATM(引き出し可能なATM) ◎平日に24時間またはほぼ24時間利用可能									
普通預金 (1円以上)	定期預金 (1年、 100万円)	都市銀行ATM				コンビニATM					郵貯 ATM
		みずほ	三井 住友	三菱東京 UFJ	りそな	セブ イレブン (セブン銀行 ATM)	ローソン	ファミリ ー マート、 サンクス他 (E-netATM)	am/pm (三井住友 銀行ATM)		
0.001%	0.08%	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○
0.001%	0.08%	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
0.001%	0.08%	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
0.001%	0.08%	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	○
0.001%	0.08%	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎
0.06%	0.35%	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	◎
0.05%	0.20%	×	◎	×	×	◎	×	◎	◎	◎	◎
0.05%	0.319%	×	◎	○	×	×	×	×	◎	◎	○

出所 各所資料より著者作成



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp